

## 意見の申立て及びその対応

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            1 教育に関する目標            2. 各中期目標の達成状況            (2) 教育内容等に関する目標            [判断理由]</p> <p><b>【原文】</b>            「……………具体的な目標（10項目）のうち、<u>8</u>項目が「おおむね良好」、<u>2</u>項目が「不十分」であり、……………」</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい。</p> <p><b>【修正文案】</b>            「……………具体的な目標（10項目）のうち、<u>9</u>項目が「おおむね良好」、<u>1</u>項目が「不十分」であり、……………」</p> <p><b>【理由】</b>            「判断理由」には、「不十分」と判断した具体的な説明がないため、事実誤認の有無について確認ができなかったが、後述「3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点」の（改善を要する点）における指摘内容が判断根拠と考えられる。しかしながら、別に意見を申し立てているように入試関係について改善を要する点として指摘があった内容は事実誤認であり、中期計画は十分進捗していると言える。            ゆえに、本「判断理由」についても、（改善を要する点）の修正と合わせて修正を申し立てるものである。            なお、前述のように「判断理由」の記載内容には具体的な説明がないため、大学は事実誤認の有無を確認することが不可能であった。大学が具体的な理由を確認することにより、今後の目標設定やその達成のための取組の参考とすることが可能となることから、具体的な理由を明らかにすることを希望する。</p>	<p><b>【対応】</b>            意見のとおりとする。</p>

中期目標の達成状況に関する評価結果
-------------------

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b></p> <p>I 教育に関する目標</p> <p>3 優れた点、改善を要する点、特色ある点 (改善を要する点)</p> <p><b>【原文】</b></p> <p>「中期計画「平成18年度入学者から、…」について、…改善することが望まれる。」</p> <p><b>【申立内容】</b></p> <p>削除願いたい。</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>(1) 本学では、入学試験制度の企画・検討及び入学試験の実施は、学部単位ではなく、一貫して総長の下におかれた教育改革室（I. 法人の特徴）および全学組織としての入学者選抜委員会（II. 1(2)①計画1-2）が行ってきた。</p> <p>(2) この体制の下で、平成12年度大学審議会答申にある、①「求める学生を見いだすこと」、②「評価尺度の多元化の推進」、③「受験機会の複数化」、④「入学者選抜の実施体制の見直し」の観点から、全学的に入学試験制度改革を体系的に推進してきた。</p> <p>(3) ①「求める学生を見いだす」ため、他大学にさきがけてアドミッションポリシーを公表し、②「評価尺度の多元化」として、第2次試験を重視した前期日程試験、大学入試センター試験を重視した後期日程試験、AO入試、大学入試センター試験を課すAO入試等々を導入した（II. 1(2)①計画2-1）。③これらは、2年次及び3年次編入学制度の拡充（II. 1(2)①計画2-2）とともに、「受験機会の複数化」の取り組みとしても位置づけられる。④また、平成17年度に学内共同教育研究施設としてアドミッションセンターを新</p>	<p><b>【対応】</b></p> <p>意見のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>当該計画に係る記載のみでは確認できないものの、他の計画に記載のある取組を参考に、体系的に取り組んでいることは認められるため。</p> <p>当該（改善を要する点）の修正に基づき、「(2) 教育内容等に関する目標」の判断理由を以下のとおり修正する。</p> <p>「「教育内容等に関する目標」下に定められている具体的な目標（10項目）のうち、9項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。」</p>

<p>設し、平成19年度には既存の入学試験実施組織を同センターに統合することを決定するなど、「入学者選抜の実施組織の見直し」を行った（Ⅱ. 1(2)①計画1-2）。</p> <p>(4)さらに、平成11年告示の高等学校学習指導要領に対応する入学試験制度改革として、平成16年度以降は、本学にふさわしい学生を選抜するために、大学入試センター試験で5教科・7科目を課している（Ⅱ. 1(2)①計画1-1）。</p> <p>(5)以上のように、本学の入学試験制度改革は、大学全体として体系的に取り組んでおり、中期計画は十分進捗していることから、削除願いたい。</p>	
--	--

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：9 経済学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 教育水準 1. 教育の実施体制</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 「・・・留学生の割合（同<u>32.1%</u>）が高めとなっているが・・・」</p> <p><b>【申立内容】</b> <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b> 「・・・留学生の割合（同<u>24.1%</u>）が<u>やや</u>高めとなっているが・・・」</p> <p><b>【理由】</b> 「現況調査表」9-3に記載のデータ（資料1 学生定員と現員）により、博士後期在籍者（54名）に対する留学生（13名）の割合は24.1%となるため、変更願いたい。</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 13 医学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 教育水準 4. 学業の成果</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 3行目 「・・・また、進級率が年を追うごとに減少していることも問題である。・・・」</p> <p><b>【申立内容】</b> 上記【原文】を削除願いたい</p> <p><b>【理由】</b> 2年次への進級率は平成16年度入学者(96.4%)よりも平成17年度入学者(97.9%)の方が増加しており、平成18年度入学者は若干減少するものの、平成19年度入学者はまた増加している。3年次への進級率は増加したり、減少したり波がある。4年次への進級率は増加している(現況調査表13-11 資料23)。 以上のように、「年を追うごとに減少している」という指摘は事実誤認であるため、削除願いたい。</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：20 農学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 教育水準 1. 教育の実施体制</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 「<u>農学研究院</u>所属の135名の教員が」</p> <p><b>【修正内容】</b> <b>【修正文案】</b> のとおり変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b> 「<u>農学研究院及び先端生命科学研究院</u>所属の135名の教員が」</p> <p><b>【理由】</b> 国立大学法人北海道大学組織規則第28条により、農学部の教育研究の実施に当たっては、農学研究院及び先端生命科学研究院が協力することとなっており、両研究院所属の教員が、農学部の専任教員となっているため、変更願いたい。 (現況調査表20-5資料3)</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：28 公共政策学教育部

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 教育水準 1. 教育の実施体制</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 「…他の研究科の研究員や外部資金による特任教員の協力によって、…」</p> <p><b>【申立内容】</b> <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b> 「…他の研究科等の教員や外部資金による特任教員の協力によって、…」</p> <p><b>【理由】</b> 当該記述は、「分析項目 I 教育の実施体制（1）観点ごとの分析」中、「観点 基本的組織の編成」にある、「…それらの専任教員に、既存の他研究科・研究院に所属する兼任教員、外部資金による特任教員等の協力を加えて…」との記述に基づいたものであると考えられるが、<b>【原文】</b>の記述では研究院が含まれておらず、かつ、本学の正規教員である兼任教員を研究員と取り違えているため、変更願いたい。</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>



## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：06 医学部・医学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>  1. 研究水準  2. 研究成果の状況</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 6行目  「・・・毎年、国内外の学会において学会賞や学術奨励賞等を受賞しており、その数はこの4年間で、<u>国際学会賞</u>24件、<u>国際学会賞</u>11件を数える。社会、経済・・・」</p> <p>※「<u>国際学会賞</u>24件」については、「<u>国内学会賞</u>24件」の誤字脱字として別紙様式3-3により提出中。</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り、変更願いたい。</p> <p><b>【修正文案】</b>  「・・・毎年、国内外の学会等において学会賞や学術奨励賞等を受賞しており、その数はこの4年間で、<u>国内の学会賞等</u>24件、<u>国際的な学会賞等</u>11件を数える。社会、経済・・・」</p> <p><b>【理由】</b>  現況調査表6-3ページの「・・・法人化以後においても、多くの賞(学会、財団等)を受けている。」の記載及び次ページの資料4のとおり、学会のほか財団等からの受賞を含めているため、変更願いたい。</p>	<p><b>【対応】</b>  意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：06 医学部・医学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            1 研究水準            2. 研究成果の状況</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 8行目            「・・・おいても、<u>英文で表された皮膚科学のベストセラーとなった教科書は既に18,000部が購入されており、教育上優れた功績である。・・・</u>」</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b> の通り、変更願いたい。</p> <p><b>【修正文案】</b>            「・・・おいても、<u>皮膚科学のベストセラーとなった教科書は既に18,000部が購入されており、英文でも翻訳され、教育上優れた功績である。・・・</u>」</p> <p><b>【理由】</b>            18,000部が購入され、皮膚科学のベストセラーとなったのは、日本語表記の「あたらしい皮膚科学」であり、その「あたらしい皮膚科学」をオリジナルとして英文に翻訳されたものが「Shimizu's Textbook of Dermatology」であるため、変更願いたい（研究業績説明書Ⅱ表01-6-1047）。</p>	<p><b>【対応】</b>            意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：13 情報科学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 研究水準 1. 研究活動の状況</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 「特に、21世紀COEプログラムに続いてグローバルCOEプログラムにも採択されており、<u>両者に対する事後評価結果における評価も高く、・・・</u>」</p> <p><b>【申立内容】</b> <b>【修正文案】</b> のとおり変更願いたい。</p> <p><b>【修正文案】</b> 「特に、21世紀COEプログラムに続いてグローバルCOEプログラムにも採択されており、<u>21世紀COEプログラムに対する事後評価結果及びグローバルCOEプログラムの採択時における評価も高く、・・・</u>」</p> <p><b>【理由】</b> グローバルCOEプログラムの事業計画期間は、平成19年度から平成23年度までの5年間の継続事業であることから、事後評価結果という表現は不適切であるため、変更願いたい。</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：19 電子科学研究所

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 研究水準 1. 研究活動の状況</p> <p><b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b> 科学研究費補助金16件</p> <p><b>【申立内容】</b> <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい。</p> <p><b>【修正文案】</b> 大型科学研究費補助金16件</p> <p><b>【理由】</b> 現況調査表19-9（資料15）においては、大型科研費などの獲得状況として、特定領域研究・領域代表、特定領域研究・計画班、基盤研究（S）、基盤研究（A）、若手研究（A）のみの件数をカウントしているため、変更願いたい。</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>